

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年11月13日

協議会名: 倶知安町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
倶知安町	①東西ルート(市街地東西循環) ②東西ルート拡大 (市街地東西循環 ・DCM倶知安店経由) ③東西ルート快速 (市街地東西一部循環) ④東西ルート拡大・旭ヶ丘経由 (市街地東西循環・旭ヶ丘・ ・DCM倶知安店経由) ⑤東西ルート快速・旭ヶ丘経由 (市街地東西一部循環 ・旭ヶ丘経由) ⑥南北ルート(市街地南北循環) ⑦南北ルート拡大 (市街地南北循環 ・DCM倶知安店経由) ⑧南北ルート快速 (市街地南北一部循環) ⑨南北ルート・旭ヶ丘経由 (市街地南北循環・旭ヶ丘経由) ⑩南北ルート拡大・旭ヶ丘経由 (市街地南北循環・旭ヶ丘・ ・DCM倶知安店経由) 運賃:100円(中学生以下無料)	●安全安心な公共交通を確立 すべく、運転手との意見交換会 を実施 ●じゃがりん号の使い方(利用 方法)を広く周知し、利用したこ とのない町民に対し、利便性高 い公共交通ということを認識さ せた。	A 計画している運行日数、運 行回数どおりに実施した。	B 夏期には徒歩や自転車の利用 で、バス利用者が少なくなる が、冬期に利用が増加する 傾向にあった。東西ルートでは 若干の減少傾向にあるが、南 北ルートでは増加傾向にある。 全体乗車数は、目標値27,767 人に対し、27,393人(達成度 98.6%)、運賃収入は、目標値 2,197,400円に対し、2,239,607 円と(達成度101.9%)目標値を やや超える結果となった。 <各系統の目標値と実績値> ①東西ルート:4.5人⇒1.4人 ②東西ルート拡大:16.9人⇒ 7.5人 ③東西ルート快速:11.9人⇒ 3.5人 ④東西ルート拡大・旭ヶ丘経 由:11.9人⇒6.4人 ⑤東西ルート快速・旭ヶ丘経 由:5.0人⇒5.5人 ⑥南北ルート:5.9人⇒3.8人 ⑦南北ルート拡大:8.3人⇒4.2 人 ⑧南北ルート快速:3.5人⇒1.5 人 ⑨南北ルート・旭ヶ丘経由:2.1 人⇒2.7人 ⑩南北ルート拡大・旭ヶ丘経 由:7.0人⇒4.3人	【利用促進・利便性】 ○ルート・ダイヤ改正から8年 が経過し、これまでの運行実績 や実情に応じ、「集まる場所」 へのルート・ダイヤ設定など、 様々な方向から運行方法につ いて検討する。 ○じゃがりん号の使い方(利用 方法)を広く周知し、利用したこ とのない町民に対し、利便性の 高い公共交通ということを認識 させる。 【財源確保】 ○車体への協賛広告など、大 手企業からの広告収入の検討

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和7年11月13日

協議会名：	倶知安町地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>倶知安町は、北海道・後志地方の中央に位置し、秀峰「羊蹄山」の麓にある人口17,114人(令和7年1月1日現在)の町である。昭和47年12月20日には「スキーの町宣言」をし、冬には上質のパウダースノーを求め、国内外から多くの観光客が訪れる、北海道を代表する国際リゾート地である。</p> <p>倶知安町市街地では、幹線道路をルートとする地域間幹線系統の運行があるものの、市街地住民にとって、生活交通としての利用が限定される路線であったことから、市街地における公共交通不便地域の解消とJR倶知安駅でのJR函館本線、他の地域間幹線系統との接続に対応する公共交通として、平成24年4月から“まちなか循環バス「じゃがりん号」”を通年運行している。</p> <p>「じゃがりん号」は、通年運行以来、市街地の高齢者や乳幼児を連れた主婦層の「生活の足」として、必要不可欠な移動手段になっていることから、地域公共交通確保維持事業により、今後も確保・維持していきたい。</p>